

巻 頭 言

事業管理者 病院長
金 戸 宏 行

2020年、世界は新型コロナウイルス感染症による未曾有の危機的状況にさらされています。それは感染者数、死亡者数だけではなく経済的な損失も合わせるとその損害は計り知れない状況になっています。はたしてこの状況をいったい誰が予想していたのでしょうか？ 人類はかつて天然痘、ペスト、スペイン風邪といった感染症に襲われパンデミックを経験し、そしてそれらを克服してきました。天然痘は1958年世界天然痘根絶計画が世界保健機構（WHO）総会で可決された当時、世界33カ国に天然痘は常在し、発生数は約2,000万人、死亡者数は400万人と推計されていました。ジェンナーが種痘を発見してから約200年かかりましたが、1980年WHOにより根絶宣言がなされ、人類が根絶した唯一の感染症となりました。ペストは14世紀には欧州の人口の三分の一が命を落としたとも言われており、人々は病を「黒死病」と呼び恐れていました。ここ20年間の発生状況は世界で6万人程度の発症があるものの治療法の発展により死亡率は10%以下までに改善が得られているようです。1918年に流行が始まり、1920年に収束したインフルエンザウイルスによるスペイン風邪は、第一次世界大戦中で各国の人々が入り混じる戦時下で、感染は瞬く間に世界中に広がりました。大戦での戦死者が1500万人だったのに対し、スペイン風邪による死者は諸説ありますが世界で数千万人と言われています。多くの人が感染したことにより免疫が獲得され終息に向かったものと考えられています。その後もインフルエンザウイルスは変異を繰り返して季節性の感染症として現在もお生き残り、ワクチンや抗インフルエンザ薬の進歩があるものの、日本においてインフルエンザウイルス感染症による死者数は毎年1000~3000人とされています。このように人類は幾度となく世界的に流行し多数の感染者と死者をもたらす感染症との戦いを繰り返してきました。そしてそれらを制御したり共存したりする道を歩んできました。医学がさらに進歩している現在において、時間を要するかもしれませんが、必ずや今回の新型コロナウイルスによるパンデミックも制御できる時が来るものと信じております。

さて市立室蘭総合病院医誌はこのたび45巻の発行となりました。今年は2編の症例報告をはじめ、病理解剖症例概要、CPCをはじめ、各種院内研究会・研修会記録、各部署の業務活動報告、年間業績集などが掲載されています。毎年ベテラン職員の指導のもと若手職員からの寄稿いただきありがとうございます。今後も本誌が若手職員たちにとっては登竜门的な役割を担っていくことを願うとともに、ベテラン職員からもさらに活発な投稿がなされることを期待します。最後になりますが、多忙な診療活動の中で執筆を担当された職員の皆様と本誌発行にご尽力いただいた編集委員の皆様へ深謝いたします。

